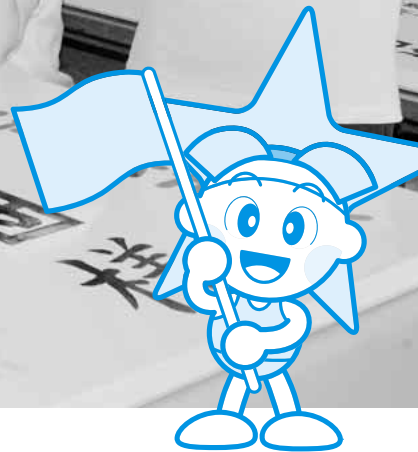


し、応援しよう



市内各地で「晴れの国おかやま国体」に向けたボランティア活動が行われていますが、県内の各高等学校でも国体に参加しようという様々な取り組みが計画されています。

民泊「歓迎看板」を作成

自分たちも国体に参加したいと、高梁工業・城南高校、高梁高校、高梁日新高校の生徒会の皆さんが、市内の民泊施設に設置する成年男子ソフトボール選手団の歓迎看板を制作しました。

8月3日、高梁工業・城南高校に集まった3校（高梁工業・城南高校16人、高梁高校11人、日新高校6人）の生徒たちは、自己紹介の後、同校デザイン科3年で生徒会長の小林秀美さんから塗り方の説明を受け、早速作業に取り掛かりました。

用意された一畳ほどの大きさの看板下地に、ももっちの図柄や「ようこそ高梁市へ」などと書かれた下絵を鉛筆でなぞって写していきます。その後、青色や黄色など色ごとに担当を決めて仕上げていきました。

小林さんは「国体にかかわ

りたいという思いがあつて、デザイン科なので看板を作ることにしました。私たちだけでは大変なので2校の生徒会へ呼びかけました。他の学校のみんなと一緒にこうした作業するのは初めて。ふれあいの場が持てていい機会になったと思います。今日みんなで作った看板は、選手の方々が民泊にきて一番先に目にするもの。私たちの看板を見てさらに頑張ってもらいたいですね」と話します。国体本番では、バレーボール競技の補助員としても活躍します。

「自分が生まれた県での国体開催は一生のうちで経験できるかどうかだと思います。今日は高校生活のいい思い出になりました。国体では、できるだけたくさんの競技を見に行きたい」と高梁高校2年の山口大友君（落合町阿部）。また、日新高校3年の國光美紀さん（総社市）は「他の学校と合同でこのような制作がで



国体だより

その6

国体に参加

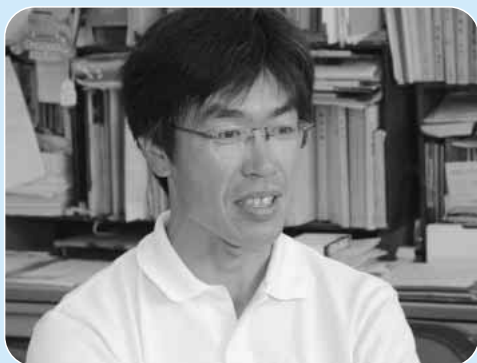


制作された看板の数は民泊するチームの数の16枚。各民泊協力会に渡され、受け入れ先の県名などが書き込まれて、チーム受け入れ時に、民泊施設に設置されることとなります。

「生徒会担当の城南高校、デザイン科、森かず代教諭(34)は今回の企画について「生徒たち自らが主体となって行いました。生徒たちにとってはいい経験であり、こうした活動がボランティアに対しての自主性につながれば」と願っています。



作成の仕方について説明する小林秀美さん



おりもと まさあき
織本昌朗さん(39)

津川町今津出身(総社市清音)
玉野光南高等学校保健体育教諭

第46回石川国体(石川県)、第47回へにはな国体(山形県)、第48回東四国国体(香川県・徳島県)、第51回ひろしま国体(広島県)、第52回なみはや国体(大阪府)に岡山県代表としてバレーボール成年男子9人制に出場。第46回は5位、第47回は3位、第48回では優勝を収めた。現在は、玉野光南高等学校の女子バレーボール部の監督として活躍中

国体に望む バレーボール競技で審判

織本昌朗さん

高梁会場(市民体育館)で行われるバレーボール成年男子6人制で、審判と競技の運営に携わる織本昌朗さんにお話を伺いました。

「選手としても国体に出場された経験をお持ちですが」

平成3年の石川国体が最初で、全部で5回岡山県代表として出場しました。特に優勝した平成5年の東四国大会は、思い出深いです

ね。決勝は地元香川県の対戦でしたが、民泊先の皆さんが地区をあげて私たちを応援してくれたので、とてもありがたかったです。

この時は、2人ずつぐらいに分かれて一般家庭での民泊でした。食事は近くのコミュニケーションハウスでしたが、最初の日には地区の皆さんとの交流会があり、お酒も振舞われ楽しいものでした。

「高梁会場ではソフトボール選手団を共同民泊で受け入れますが、選手の立場としてのアドバイスを」

でした。チームの選手は選抜のため、お互いが打ち解けたコミュニケーションの場ともなりました。

選手の皆さんは見知らぬ土地で競技を行うわけですから、応援していただくことが一番だと思います。ぜひ、競技会場に向いて受け入れをしたチームを応援してあげてください。

「バレーボールの見所を教えてください」

トップレベルの試合が観戦できる絶好のチャンス。それも1日数試合も観ることができます。テレビで見るとは全然違うと思いますよ。岡山県代表として旭化成のチームも出場のしますので応援してください。高梁はバレーボールの盛んな所です。国体を機にもっと多くの人が、バレーボールを好きになってほしいと思います。